

——**消防団員からは**
絶対に二次災害は起こさない



消防功績
菊池 和則 氏(59歳)

会社員勤務の傍ら、消防団で活動し43年目。地域外勤務の中、消防活動のスケジュールを調整しながら、今も現役の消防団塩原支団長として任務遂行にあたる頼もしいリーダー。

「人の人生が変わるような事故(災害)を起こしてはならない。これが火事現場での教訓です。消防団員も、火事や水害出動で危険にさらされています。仲間からは絶対に二次災害を起こさないよう配慮しています」。そう話す菊池さんからは、優しさの中に強い信念を感じました。

消防団員が減少傾向で、その確保も難しいのが現状という中ですが、近年は山火事や豪雨災害が多く発生し、豊かな自然の保護と市民の安全安心な暮らしを守ること考え、予防活動にも力を入れているという菊池さん。コロナ禍で消防団活動が制限される中でも、現状の消防団の組織や活動の改編をしていければと考えているそうです。

今回の受章に関しては「大変光栄。まだ現役の支団長なので、気を引き締めて消防活動の指揮をとりたい」と決意を聞かせてくれました。

会社勤務から自衛隊、消防士という珍しい経歴を持つ津久井さん。今回の受章に関して、「長い間頑張ってきたご褒美と受け止めています。これまで支えてくれた皆さんはもちろんのこと、妻には特に感謝しています。ありがとう」と喜びの気持ちを聞かせてくれました。

平成10年の大水害のときにも現場での任務に当たっていました。家などが流されていく様子を見て、人の無力さと自然の猛威を目の当たりにし、恐怖を感じました。それでも火災や救急・救助の現場では大変だと思ったことはないそうで、任務が終わって現場を後にするときに、お礼の言葉をかけられることにやりがいを感じていたといっています。

体を動かすことが大好きな津久井さん。趣味のマラソンやゴルフをしながら、100歳まで健康に過ごすのが目標だそうです。

——**火災や救急・救助の現場で**
大変だと思ったことは
ありません

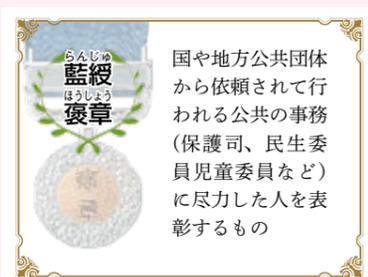
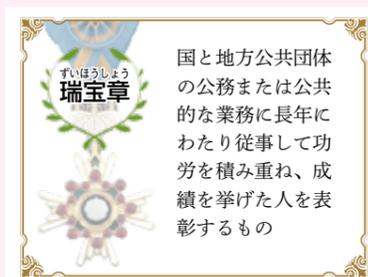
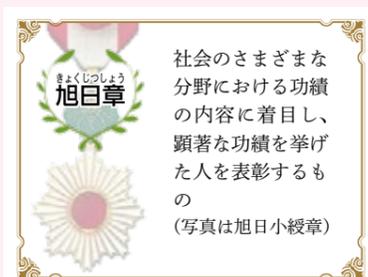


消防功勞
津久井 和夫 氏(74歳)

※本人の希望により写真掲載なし。

18歳から3年間、東京で会社員として勤めた後、25歳まで陸上自衛隊朝霞駐屯地に勤務。その後、黒磯消防組合で主に現場での救助の任を担い、35年間勤めあげた。

勲章の種別



~**叙勲・褒章受章**~
長年の功績に栄誉

このほど叙勲・褒章が発表され、本市から5人の皆さんが受章されました。ここで、受章された4人の経歴とコメントを紹介します。

※1人は掲載を辞退。

—— **一世一代の晴れ舞台と**
感謝感激しています



地方自治功勞
今野 和雄 氏(91歳)

平成5年に本郷町自治会長に就任して以来、今も現役で自治会長の職に当たる。地域のために長年にわたり活動してきた功績が認められ、県や総務大臣などからも表彰を受けた。

28年以上の長きにわたって、地域に根差した活動に取り組んできた今野さん。輝く勲章を手にして、「受章できるとは思っていませんでした。市長や関係者の皆さんの支援のたまものと、深く感謝しています」と晴れやかな表情で語ってくれました。

地道な事務作業から地域の人々との議論まで、幅広い役割を担う日々の中、今野さんは「自治会長はいろいろなことができないと務まらない」と実感しています。自治会運営のための書類作りには苦勞もありますが、地域に住む多くの人々の前に立ってあいさつをする場面が大好きで、地域のイベントや集会のときにはいつも大きなやりがいを感じるといいます。

長年の趣味はカラオケに行くことで、「最近では控えているが、また気軽に行ける日が来ればうれしい」と、コロナ禍の収束を心待ちにしていました。

受章に当たって「多くの仲間と先輩保護司に支えられたたまものであり、感謝の気持ちでいっぱい。身に余る栄誉です」と話してくれました。

保護司として、罪を犯した人の社会復帰の手助けや、再犯・非行防止活動を行ってきた金子さん。再度罪を犯した対象者を3度担当することになり、自分の保護司としての対応がこのままで良いのか、悩んだこともあったとのこと。しかし、更生して結婚した対象者の話を聞いたときや、保護司を始めた頃の対象者に話しかけられたときは大きなやりがいを感じたそうです。平成18年には那須保護区保護司会の西那須野支部長に抜てきされ、6年間支部の取りまとめにも奔走しました。

夫婦でのハイキングやドライブが趣味という金子さん。「いつか九州まで、車で行ってみたい」と、これからの楽しみを語ってくれました。

——**更生して働いている姿を**
見られることが嬉しいです



更生保護功勞
金子 實 氏(73歳)

平成12年から保護司として活動を始め、平成26年度からは那須保護区保護司会の企画調整保護司を担い、会の企画や運営を行っている。20年経った現在も更生保護活動に尽力中。